

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社きさら 果実の木 須屋		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 13日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 15日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 27日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○事業者向け自己評価作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一貫した支援ができる(連続性) 同じスタッフやチームで子どもを継続的に見守ることができ、園や学校での様子と放課後の様子を総合的に把握しやすい。	子どもにとっても、安心できる大人が複数の場面で関わることができるため、関係性の安定に繋がるように工夫している。	来年度も更なる連携を強化していく。また4月初旬に訪問先に挨拶に行き、関係性を深める。
2	情報共有がスムーズ 訪問支援で得た情報を放課後等デイでの支援に活かせる(逆も然り)。	保護者や関係機関に対して、一貫した方針や対応策を伝える共有する時間を作る。	すぐ共有が図れるように、事前の連絡を徹底する。
3	支援の質の向上 訪問支援を通して得られた専門的視点(集団適応や対人スキルなど)を日常支援に活かせる。	職員間の観察・助言がしやすく、チームとしてのスキルアップ出来るようにしている。	他教室とも保育所等訪問支援を通じた連携方法を考え、事例検討会などしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員配置・時間管理の調整 訪問支援は基本的に日中(保育園や学校の時間帯)に行うため、放デイの支援時間(放課後)との両立が難しくなる。	兼務スタッフのスケジュール調整が複雑になりやすい。	ゆとりのある業務効率を考えていく。
2	支援対象の切り分けの難しさ 放デイの利用児と訪問支援の対象児が重なる場合、支援の客観性や公平性の確保が求められる。	「どこまでが訪問支援としての助言・支援なのか」という線引きが曖昧になることがある。	1人で完結せず、いろんな目線の職員に共有するようにしていく。
3	訪問先との関係性構築 訪問支援を行う園や学校との関係性が重要だが、事業所のカラーや支援方針との調整に苦労する場合がある。	特に放デイの立場が先行しすぎると、訪問先からの距離感を生む可能性有り。	訪問先と連携を取り、こちらの主訴と、訪問先の主訴を確認する時間を作る。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 株式会社きらら 果実の木 須屋

公表日 年 月 日

利用児童数

1人

年 月 日

回収数 1

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 訪問支援に使用する教員教材が整えられていますか。		1		1		今後、必要な場合は整えたい。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	2					
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	2					
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	2					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	1	1				
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1	1				
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1	1				事前に目的・計画を伝え上で、訪問先、ご家族に説明していく。
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	2					
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1			1		必ず1回あるごとに伝えていく。
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	2					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。				2		機会を増やせるように私自身が質の向上に勤めていく。
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					
	19 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	20 事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	2					
	21 保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	2					
22 保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	2						
非 常 時 等 の 対 応	23 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2					
	24 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1			1		
	25 事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。				2		
満 足 度	26 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	27 こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	2					
	28 事業所の支援に満足していますか。	2					

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

株式会社きさら 果実の木 須屋

公表日	2025年	3月	31日		
利用児童数				回収数	1人
2人	2025年	2月	15日		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社から 業の末 産産	公表日	2025年 3月 31日
チェック項目	工夫している点・改善の必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
体制・組織	1 訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。		今年度は行動観察と面接支援があり、今後想定される準備をしていく。
	2 利用希望者に対して、職員の数配置は適切であるか。		保育所等訪問の希望数に対して、職員の配置に余裕がない。
	3 業務改善を進めるためのPOCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	全職員が参加できるよう工夫している。	
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	グループ全体で検討する機会を設け、業務改善につなげている。	
	5 従事者の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		毎日ミーティングや個別の相談等で意思の統一をしている。
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		会社として今後、第三者による評価を検討している。
	7 職員の意欲の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	定期的な社内研修を実施している。	全職員が外部研修に積極的に参加できるよう配慮している。
適切な支援の提供	8 毎々のことに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	職員で客観的に分析できるようにみんなの意見を取り入れている。	
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		その関係、会議録などを共有していく。
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を取り込んでいるか。	事前に担任等とのアセスメントを行い、意向を取り入れられている。	
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	計画会議や日頃のミーティングの中で、支援情報共有している。	
	12 こどもの適応行動の状況や、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	日々の行動観察や保護者・担任からのアセスメントにより確認している。	
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の目的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。		標準化されたアセスメントツールを検討していく。
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	保育所等訪問開始前に計画共有を行い、支援を行っている。	保育所等訪問後に共有会を開いている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	支援前の打ち合わせを必ず行い、その日の訪問支援の方向性を確認している。	
	16 支援終了後は、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	訪問支援後の報告を徹底し、次の支援へつなげている。	
	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。		
18 毎回の支援に関して、記録を怠ることや徹底し、支援の検証・改善に取り組んでいるか。	記録をとり、情報共有し検証をしている。		
19 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の進捗の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		年に数回しか訪問できない所もあるので、見直し等感じている。	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのことでの状況をよく理解した者が参加しているか。		本人も参加してもらえそうな働きかけを行う。
	21 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		
	22 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4月前旬に学校等へ移行し、引き続き連携の継続に上がる。
	23 親の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けた。職員を外部研修に参加させているか。		
	24 「自立支援」協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		地域自立支援協議会や子ども部会に参加している。
	25 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		
	26 家庭の対応力の向上を図る観点から、家庭に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	家族等の参加できる研修の機会の提供情報には随時行っている。	
保護者等への説明等	27 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	新規契約時に説明を行っている。	
	28 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	契約前及び年毎初めに訪問先の管理職及び関係職員に説明を行っている。	
	29 保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を含め、こどもや家庭の意向を確認する機会を設けているか。		
	30 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。		
	31 定期的に、家庭等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ必要な助言と支援を行っているか。	距離、経験が必要であれば会議などお話ししている。	
	32 父母の会の活動や支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。またきょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		ご家族参加型の活動により、保護者・兄弟交流の機会を設けている。
	33 こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	契約時に説明を行っており、何かあった場合には、迅速な対応を怠っていない。	
	34 定期的に連絡等を行うことや、HP/SNS等を活用することにより、活動観察や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	毎月1回、お便りを発行している。また、会社としてホームページやSNSも随時更新している。	
	35 個人情報等の取扱いに十分留意しているか。		
	36 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		
訪問先施設への説明等	37 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。		
	38 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	訪問支援後、記録をもとに行っている。	
	39 保育所等訪問支援の実施後に、家庭等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	訪問支援当日に電話等でお伝えし、後日報告書をお渡している。	
	40 個人情報等の取扱いに十分留意しているか。		
	41 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	訪問支援や報告の際に子供の様子も共有しながら、相談内容に対し一層深く安心な視座を行っている。	
非常時等の対応	42 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか。		保護者等への周知を図っていく。
	43 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	社内の委員会にて計画し研修及び訓練を行っている。	
	44 ビヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	社内でビヤリハットについて共有方法が構築されている。自教室または社内でのミーティングにて検討している。	
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	委員会にて研修及びセルフチェックを定期的に行っている。	
	46 どうなる場合にどうするかを必ず事前決定を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援機関に記録しているか。	契約時に身体拘束についての説明を行っており決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援機関に記録している。	